

平21 福島県公立小中学校学校事務研究会・事務研修会
カリキュラム経営への参画

福島大学総合教育研究センター
 渡辺 博志

カリキュラム経営と教育課程 1

・「教育課程」が「カリキュラム」になること

「カリキュラム」
 わが校の実態に即して、「教育課程」を
 実施に移すための諸方策
 わが校の実態
 多面的な方策・取り組み

「教育課程」
 学校が目的、組織的、計画的に
 実施する教育内容

カリキュラム経営と教育課程 2

・教育課程 → 基準は学習指導要領

- ◇教育課程の編成、実施、評価
- ◇〈わが校の〉の実態

実態：強み、弱み、特質、独自性
 (4つの実態)
 保護者・地域社会／児童・生徒
 教職員／教育委員会

- ◇多面的な検討
- ◇豊かに「動く」：マネジメント

↓

カリキュラム

カリキュラム経営と教育課程 3

・「教育課程」は、
 実践の工夫、教職員の多面的な検討、
 マネジメント〈経営〉が盛り込まれて
 はじめて、
 「カリキュラム」として機能する

↑

学校事務の力を生かす
「学校力」

学校の現状 1

〈改訂学習指導要領等の研修〉
 研修にはステージがある…自校の研修は

I 理念 新規 解釈 意味付け ↓
 II 各教科等「解説」の理解 ↓
 改訂の主旨／構成／教育内容の移動／新設内容・時数
 III 「移行」についての具体、検討 ↓
 IV これからの授業の在り方検討 ↓
 V 教育課程の編成
 言語活動、理数の重視、伝統と文化、体験活動等

学校の現状 2

〈学力向上の取り組み〉
 各学校の学力向上には取組の構造がある

↓

エビデンス評価(数値目標と評価)
 国と算・数に特化した教育研究
 学力格差への対応

- ・M字化傾向(2極化)／生活との相関

「活用」型の学び

学校の現状 3

〈様々なマネジメントの導入と拡大〉

評価は、改善のために活用することが前提
 錯綜する評価活動

- 学校評価
- 教職員評価
- 危機管理についての評価
- 「開かれた学校」対応

} かみ
 合わせ

学校の現状 4

〈新たな危機管理対応〉

リスクとクライシス 2つのマネージメント

安心・安全／自然災害／押し寄せる
 要求・要請／苦情／事後対応不備

学校の現状 5

〈多様な教育ニーズ〉

抱え込む多忙感←常に求められる複数対応

特別支援教育 ← 求められるきめ細かさ
 連携ニーズ ← 小・中連携 地域連携
 外部の教育力 ← 地域の教育力活用
 地域要請の児童生徒参加←教育課程内、外
 多様なボランティア活動
 今後は、子どもたちの生活の基盤の確保も
 S S W (スクール・ソーシャル・ワーカー)

学校の現状 6

〈苦慮する財政対応〉

教育活動を脅かす学校予算の縮減

↓ 学校力の低下懸念

予算計画の縮小→運営基盤の揺らぎ
 職員旅費の激減
 研修・研究会参加減少
 保護者負担増の懸念
 人材経費削減

「学校力」を高める 1

〈まわるペンタゴン〉 → 「学校力」を感じる
 とき

○学校が動いている

地域社会の願いに敏感／解決や改善に向けて「結
 集力」が感じられる／対応にスピード感と納得感
 がある／対応に同じ価値観を共有している／職員
 間に「一致団結」の姿勢がある／職種、年代、性
 別を超えた議論がある

「学校力」を高める 2

○学校(組織)にスパイラルな志向性がある

教育活動に更新性が感じられる／教育活動に「ひと
 工夫がある／研究的な姿勢がある／議論が成り立っ
 ている／逆算思考が働いている(目的、そのために、今、
 私は何を)／尊重(リスペクト)し合うことが基盤にある

○教育のベクトルが子どもに向いている

子どもの成長に目に向いている／授業で育てるとい
 う共通の教育観／組織全体で子どもの成長を喜ぶ

「学校力」を高める 3

「学校力」の「要素」にはわけがある

- 学力育成
- 安全・危機管理
- 学校文化
- 指導力
- 経営力

- 学力育成…子どもの意欲・態度・学力 社会力、協働力、規範力、体力、気力
- 安全・危機管理…信頼、学校教育の絶対的条件、学校の対応力、計画力、実践力
- 学校文化…学校らしさ、学校の個性、特色、独自性、伝統などとともに、それらを充実、発展、さらには開発する組織文化
- 指導力…授業力、子ども研究、専門的知識・教養、チーム力、組織人としての自覚(意欲、使命感、責任感など)
- 経営力…経営ビジョン、経営計画、カリキュラムマネジメント、スタッフマネジメント、外部関係マネジメント

学校経営に参画する学校事務 1

〈総合的な目〉を生かす

総務領域を担う「鳥の目」と実態を把握する「虫の目」を持つ強み

↓

貢献する多様性→同質集団の暗黙知を攪拌
実務に裏付けられた実践
担保する視点で検討

※管理職が真っ先に相談したいスタッフ/意見を聞きたいスタッフ/着地点をイメージできるスタッフ/「かたち」にできるスタッフ

学校経営に参画する学校事務 2

〈学校(教育)の資源について、構造的に把握、理解している〉

↓

資源について意味付け、価値付けができる

人的資源/物的資源/財政情報/法制/活用/ネットワーク
静的資源 → 動的資源

※学校にスパイラル(螺旋的)な高まりを生む

学校経営に参画する学校事務 3-1

〈自校教育の「思いや願い」を具体化できる綿密な計画力と企画力をもつ〉

↓

抽象(思いや願い)を具体化で支える
能率化、効率化する見通しがある

↑

(教員にとって、一番の弱点)
「総合的な目」で関連を考える

学校経営に参画する学校事務 3-2

〈計画力と企画力〉の具体化を考える

〔事例〕

- 「手上げ方式」研究の具体化
- 予算についての学校裁量拡大
- カリキュラムの5Mと進行管理

↑

計画と予算の一体化なしには
自校教育の豊かさは確保できない

学校経営に参画する学校事務 3-4

〈事務室の力〉：概念化マップ

概念化：意味、価値付けから見る

本音	ほっとする	交流	知恵がある
「てきばき」がある	子どもがほっとする・すぐわれる		
困ったときの事務の先生	黒子ではもったいない		
支える風土	実践力	忙しさをいとわない	
貢献度	具体化があるところ	ネットワーク	
専門家	予算	法規	子どもが大好きなところ
地域の入り口	保護者の入り口	親身	総務


事務のコーナーを持つ（職員会議、運営委員会、研修・研究会、事務だより）← 日常的な発信が学校を動かす

福島県小学校長会プロジェクト委員会資料

学校経営に参画する学校事務 4

〈改訂学習指導要領の取組は、意識改革の好機〉

〔自校教育〕
自校教育の本質的な改善
外向きのベクトルと内向きのベクトル←力点の置きどころ



学校事務が支える
発想・重点・具体化

財政難時代の学校経営
教職員構成・・・期待されるベテランの実践
少子化時代の学校教育
市町村教委の特色ある教育行政・予算

学校経営に参画する学校事務 5

〈学校の絶対条件：安心・安全〉

「安心・安全」一番近いところ

- ・安心・安全の具体が見える
- ・危機管理の具体が見える

教育の入り口と出口を担う

- ・地域情報 ・集金 ・教育要請
- ・予算計画と執行 ・連携

教育課程の構造 1


- ・「教育課程」は3つの系で成立する

〈教科系カリキュラム〉・・・閉じられたCC.
教科書という学ぶべき対象があらかじめテキスト化されている

〈体験系カリキュラム〉・・・開かれたCC.
特別活動の諸活動。教科書は「存在しない」。
体験活動が重視される。学校行事、学級会活動等

教育課程の構造 2

〈架け橋系カリキュラム〉・・・第3のC. C.
教科系C. C.と体験系C. C.をつなぐ「架け橋」のような存在。
教科書のない学習である「総合的な学習の時間」
副読本、資料を活用する「道徳」



学校の総合力や教師の力量が問われる

6 教育課程の枠組みを修正

中学校教育課程の枠組み	小学校教育課程の枠組み
<p>〈各教科〉 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語</p> <p>〈道徳〉 自他の生命の尊厳、模範ある生活、主体的な社会形成参画など</p> <p>〈総合的な学習の時間〉 横断的・総合的な学習、探究的な学習、生涯の興味・関心等に基づく学習など</p> <p>〈特別活動〉 学級活動、生徒会活動、学校行事</p>	<p>〈各教科〉 国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育</p> <p>〈道徳〉 自立心、自覚性、自他の生命を尊重する心など</p> <p>〈外国語活動〉 コミュニケーション能力の養成 第5・第6学年に年間35時間</p> <p>〈総合的な学習の時間〉 横断的・総合的な学習、探究的な学習、生涯の興味・関心等に基づく学習など</p> <p>〈特別活動〉 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事</p>

教育課程の構造 3

これからの授業づくりに必要な教師の力
↓
生活科・総合的な学習の時間の授業づくりが
(好)影響

- 教育企画力 プランニング
- 指導力 ティーチャング
- 経営力(組織運営する) マネージメント

↑
授業づくりを支える

教育課程の構造 4

授業づくりを支援する3つの段階

- 教育計画の長期展望 ← 教育課程編成
- 教育計画の中期展望 ← 学期ごとの単元
学習具体化
- 授業づくりの具体展望 ← 個の指導

↑
「計画と予算」を支える学校事務の力

教育課程の構造 5

子どもは豊かな学びによって成長する

↑
豊かな学びの場の中心=授業

↑
各学校の教育の総合力

改訂学習指導要領：学校の取組

〈「学校経営・運営ビジョン」策定〉

- ・「経営」と「運営」の違いとは
- ・「夢と願い」を展望し、自校教育の方向を創る経営の力
- ・自校教育を具体化し形にする運営の力

↓
一体となってこそ力を発揮

改訂学習指導要領：学校の取組2

〈教育課程の編成・実施・評価〉

- ・カリキュラムとして整備
- ・我が校ならではの教育のベクトル
- 教育に対する教職員の、子どもの、保護者の、地域社会の「夢・願い」
- 自校の強みを生かした「特色」/構想と重点
- ・カリキュラム経営に不可欠な学校事務の力

↑
教育計画/教科書研究/教材/人材/地域支援
地域教材/〇〇教育/予算/設備

**「生きる力」をはぐくむという
現行学習指導要領の理念の実現**

↑

(7) 豊かな心や健やかな体を育成する指導の充実	(6) 学習意欲の向上や学習習慣の確立	(5) 確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保	(4) 思考力・判断力・表現力等の育成	(3) 基礎的・基本的な知識・技能の習得	(2) 「生きる力」という理念の共有	(1) 改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
--------------------------	---------------------	-----------------------------	---------------------	----------------------	--------------------	---------------------------

1 今次改訂の基本的考え方

